

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4698900018		
法人名	有限会社笑風会		
事業所名	グループホームゆい		
所在地	鹿児島県奄美市笠利町喜瀬2437-1番地		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームゆい」はご家族や地域の方が気軽に足を運べるような和やかな雰囲気のある施設です。入居者の方にはできるだけ家庭的な環境で生活していただくように、その中でご本人の役割を見つけ生活できるよう職員は支援しています。また地域の方に認知症のお年寄りに対する理解を深めていただくためにホームの行事に参加していただき御家族の方との交流の場となっています。利用者の方は近隣の買い物、ピクニック、海岸沿いの散歩など今までの生活と変わらない活動やご本人の希望に沿った支援ができるように努めています。時には職員に島料理を教えながら一緒に料理を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、老人会を事業所で開催し利用者も参加している。地域行事への参加、夏祭り、クリスマス、笑運動会等、小学校、地域、家族の協力があり、日常的に交流がされている。運営推進会議では、参加者に運営について助言を頂き、会議の内容も家族、職員に報告し研修計画されケアに活かされている。利用者は、ドライブや買い物に出かけたり、戸外へ出ることを積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し管理者と職員は朝の朝礼後に理念を唱和しており「豊かにゆったりと自分らしい生活ができるように」支援し実践につなげるようにしている	理念に「地域の人々と強い絆を育みます」と掲げ、散歩時買い物等出かけた折に、利用者と地域の方々とコミュニケーションに努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年島の行事に事業所として参加している。施設の庭で種おろし(豊年祭)の八月踊りを入居者、近隣の方も参加し一緒に踊られている。	施設長の永年の地域との交流があり、地域行事、事業行事、地域ボランティアで小中学校との交流、老人会への参加等、集落、家族も協力するなど地域につながりができ日常的に交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方にも参加いただき、ホームの活動内容などを報告しています。また管理者が地域の老人会に参加したり老人会を年1回施設で開催し入居者や職員との交流を図っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行い、参加者から運営などの助言を頂きサービス向上に活かせるようにしている。	運営推進会議は年6回開催され、行政の協力もあり事業所の状況報告や運営について助言をもらい、地域との交流につながっている。会議の内容も家族・職員に報告しケアに活かされている会議になっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは常に電話やメールで連絡を取り合っており連携を図っている。認定更新等で利用者の施設での暮らしぶりや状況などを伝えている。	運営推進会議での状況報告をして、相談にのってもらったり、奄美市役所のセンター方式での勉強会に参加。又、町役場から依頼され、集落での講演・笠利町事業文化祭への出品など町との連携が取れている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで身体拘束に関して話し合いお互いの認識の共有を図っている。利用者が外に出かけようとしたら、職員が声をかけ付き添いを行い安全に暮らせるよう支援している。	身体拘束について、身体的、精神的な事を職員がよく理解している。包括の方からスタッフへ虐待の勉強会、事例検討会の研修が行われている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で外部から講師を依頼し高齢者虐待法に関して学び周知徹底を図っている。虐待には暴力的な行為以外にも言葉による虐待なども含まれることなど職員間で理解認識した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時には丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応方針など詳しく説明、その都度話し合いを行い同意を得るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応方針など詳しく説明、その都度話し合いを行い同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	思いが伝えられない利用者の表情などから嫌がること、喜ばれることを捉え運営に反映させている。ご家族には何でも言ってもらえるような雰囲気作り心にかけている。	ご家族には、2ヶ月に1回スタッフより定期的にお便りを出して、何でもいってもらえるような雰囲気づくりに努めている。今年は家族会より、夏祭りの弁当代を徴収してほしいとの事で、ご意見を頂きました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。	管理者は、毎月の職員会議や朝の申し送り等で、意見や提案を聞き、業務改善が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や努力、実績を把握し給与UPを行っている。研修など向上心ややりがいをもって働けるよう、希望によっては勤務交代や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご本人、家族から要望や不安な点などを聞き、安心していただけるようゆっくり時間をかけて説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する際に、ご家族と時間をかけて面談をし困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の必要としていることが早急の場合は柔軟に対応している。内容によっては他の事業所のサービス利用につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と家族の一員として一緒に台所に立ったり、洗濯物を畳んだりしながら人生の先輩である利用者から生活の知恵を学ぶ気持ちで接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域の老人会の方々の訪問や、ご家族、親類が会いにこられつながりが途切れないような支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の老人会の方々の訪問や、ご家族、親類が会いにこられつながりが途切れないような支援を行っている。	管理者は、家族との関係が途切れないよう、面会時に話を多くしたり、外出、外泊、墓参り等、家族に協力してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気まずい関係にならないように、また孤立しないように職員同士情報の共有を行い、関係が円滑に成るように働きかけている。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られたあともこれまでの生活状況や支援の内容、注意点などの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でかわり、声を掛け表情や言動から一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。必要に応じて職員間で検討している。	毎日の生活の中で、職員は頭の中には各々利用者の思いは把握できているが、記録に残っていない。	職員の努力、成果を目に見える形にする為、同じ書式に記録し計画に反映させるように希望します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人からお話を伺いこれまでの生活歴や職歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の生活の流れや体調、気分などを把握し日中の過ごし方や夜間の状況など細かく職員間で申し送り、心身状態の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別にケア記録を記載しており職員間の情報共有を行っている。個別記録を元に介護計画の見直しに活かしている。また朝、夕の申し送りでも情報の共有を行っている。	介護計画を見ながら日々の記録がされている。本人、家族、スタッフで6ヶ月に1回モニタリングを行い計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を記載しており職員間の情報共有を行っている。個別記録を元に介護計画の見直しに活かしている。また朝、夕の申し送りでも情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に応じて通院など必要な支援を柔軟に対応している。またご家族が夕食時に来られたら一緒に夕食を摂っていただく等その時々状況に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察官の訪問で意見交換や訪問理美容サービス時には施設に隣接する店に買い物などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を受けられるように支援している。	協力医療機関に月2回(内科)と月1回(眼科)の往診をしてもらい、結果を家族に報告している。専門医への受診は家族へ電話し同行してもらおう。都合によっては職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など職員は常に状態観察を行っており、急変時にはかかりつけ医や看護師に連絡が取れるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際本人の生活状況の情報を医療機関に提供し家族とは入院中の状況確認の情報交換を行い退院できるよう支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、そのつご家族、医師、看護師、職員で話し合い事業所での対応の方針を決めチームで支援に取り組んでいる。	事業所が対応しうる最大の支援方法を、職員の力量、体制を考え現在検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の研修に職員は参加し応急手当や蘇生術の方法を学んでいる。また勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所と地域との合同防災訓練を行い協力体制を築いている。また事業所内での避難訓練も行っている。	年2回消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練が地域住民の参加、協力を得て定期的実施されている。	定期的訓練だけでなく、スタッフが自信をもって避難誘導ができるように、年間を通じた自主訓練を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が恥ずかしい思いをしないよう配慮した対応を心がけている。	理念に利用者の尊厳を厳守すると掲げ、本人の気持ちを大切に考えさりげないケアや言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の好みや思いなど日頃から把握するように努めており、自己決定しやすい雰囲気をつくるようにしている。顔の表情、動作なども読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調、気分によってその日の過ごし方を決めていただいたり、散歩などの付き添いなどその時々での支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみには心がけており清潔でその人らしいおしゃれができるように心がけ、髪のカットやヘアカラーなど希望に合わせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事をとりながらテーブルを囲んでのおしゃべりや、できる人と出来る時に共に食後の食器を重ねかたづけをしています。	週2回食材の買い物に行き、利用者と一緒にメニューを考えたり、力量に応じて調理、片付けを手伝ってもらい職員と利用者が同じテーブルで、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い栄養摂取に心がけ献立や食事量、水分摂取の記録をし職員間で把握、足りない分は補助食で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛けを行い、ご自分でできる方は見守りを行いできない方へは職員がケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握を行い、定期的に声掛け誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。	夜間は、パットやリビングパンツの方が多いが、日中は布パンツに変え誘導や声かけと個々のサインの察知で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎朝のラジオ体操や牛乳などで水分補給を行っている。職員会議などで便秘に及ぼす影響など話し合い、水分補給や運動の必要性など意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員間で情報交換などおこないながらその時々で気分が入りたい日に入浴できるように声掛け支援している。	利用者は週2～3回入浴している。入浴を拒む方は、声かけのタイミングで誘導し入浴されている。冬は、タンカンを入れて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を見ながら日中休息していただいたり、夜間良く眠れるようにレクレーション等活動的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを作成し職員が内容、副作用を把握できるようにしている。服薬後の状態観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事、役割、楽しみごとを把握しご本人のできる範囲で一緒に行うようにしている。できたときには感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員とのスーパー、近所への買い物などや希望によってお弁当を作り近くの公園へ花見、またレストランでの外食などや外出の支援に努めている。また自宅への外泊できるよう支援しています。	日常は外気浴、日光浴、庭の散歩、車や車イスを利用し、戸外買い物に行ったり、外食や、お弁当を持って戸外に出かける等、積極的に外出している。	

鹿児島県 グループホームゆい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金を預かっている方でも買い物時にはお金を手渡しご自分で支払いをやっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたい要望があれば対応している。小包などのお礼の電話や、葉書など職員と共に書いたりそのつど対応するように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって刺激的にならないように、植物を置き落ち着いた空間を作り少しでも居心地よく過ごせるような工夫をしている。また温度調整もこまめに行っている。	利用者の情報を活かしながら、テーブル、椅子、テレビの配置し、フロアの飾りつけ、生活感や季節を感じられるよう、外をながめながら、ゆっくりと自分らしい生活ができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、利用者同士が利用できるようにまた一人でも過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やなじみの写真、使い慣れたものを持ちこまれ本人が居心地よく暮らせるような工夫をしている。	居室には、クーラー、温湿度計があり、快適に調整されている。寝具やタンス、家族の写真、利用者の愛用品を持ち込まれ個性のある部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて職員で話し合い環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自 己 評 価	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し管理者と職員は朝の朝礼後に理念を唱和しており「豊かにゆったりと自分らしい生活ができるように」支援し実践につなげるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年島の行事に事業所として参加している。施設の庭で種おろし(豊年祭)の八月踊りを入居者、近隣の方も参加し一緒に踊られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方にも参加いただき、ホームの活動内容などを報告しています。また管理者が地域の老人会に参加したり老人会を年1回施設で開催し入居者や職員との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行い、参加者から運営などの助言を頂きサービス向上に活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは常に電話やメールで連絡を取り合って連携を図っている。認定更新等で利用者の施設での暮らしぶりや状況などを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで身体拘束に関して話し合いお互いの認識の共有を図っている。利用者が外に出かけようとしたら、職員が声をかけ付き添いを行い安全に暮らせるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で外部から講師を依頼し高齢者虐待法に関して学び周知徹底を図っている。虐待には暴力的な行為以外にも言葉による虐待なども含まれることなど職員間で理解認識した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時には丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応方針など詳しく説明、その都度話し合いを行い同意を得るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応方針など詳しく説明、その都度話し合いを行い同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	思いが伝えられない利用者の表情などから嫌がること、喜ばれることを捉え運営に反映させている。ご家族には何でも言ってもらえるような雰囲気作り心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や努力、実績を把握し給与UPを行っている。研修など向上心ややりがいをもって働けるよう、希望によっては勤務交代や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内の研修や事業所外での研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮している。研修報告は職員会議でおこなってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご本人、家族から要望や不安な点などを聞き、安心していただけるようゆっくり時間をかけて説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する際に、ご家族と時間をかけて面談をし困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の必要としていることが早急の場合は柔軟に対応している。内容によっては他の事業所のサービス利用につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と家族の一員として一緒に台所に立ったり、洗濯物を畳んだりしながら人生の先輩である利用者から生活の知恵を学ぶ気持ちで接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域の老人会の方々の訪問や、ご家族、親類が会いにこられつながりが途切れないような支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の老人会の方々の訪問や、ご家族、親類が会いにこられつながりが途切れないような支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気まずい関係にならないように、また孤立しないように職員同士情報の共有を行い、関係が円滑に成るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られたあともこれまでの生活状況や支援の内容、注意点などの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中できかわり、声を掛け表情や言動から一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。必要に応じて職員間で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人からお話を伺いこれまでの生活歴や職歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の生活の流れや体調、気分などを把握し日中の過ごし方や夜間の状況など細かく職員間で申し送り、心身状態の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別にケア記録を記載しており職員間の情報共有を行っている。個別記録を元に介護計画の見直しに活かしている。また朝、夕の申し送りでも情報の共有を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を記載しており職員間の情報共有を行っている。個別記録を元に介護計画の見直しに活かしている。また朝、夕の申し送りでも情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に応じて通院など必要な支援を柔軟に対応している。またご家族が夕食時に来られたら一緒に夕食を摂っていただく等その時々状況に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察官の訪問で意見交換や訪問理美容サービス時には施設に隣接する店に買い物などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など職員は常に状態観察を行っており、急変時にはかかりつけ医や看護師に連絡が取れるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際本人の生活状況の情報を医療機関に提供し家族とは入院中の状況確認の情報交換を行い退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、そのつご家族、医師、看護師、職員で話し合い事業所での対応の方針を決めチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の研修に職員は参加し応急手当や蘇生術の方法を学んでいる。また勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所と地域との合同防災訓練を行い協力体制を築いている。また事業所内での避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が恥ずかしい思いをしないよう配慮した対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の好みや思いなど日頃から把握するように努めており、自己決定しやすい雰囲気をつくるようにしている。顔の表情、動作なども読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調、気分によってその日の過ごし方を決めていただいたり、散歩などの付き添いなどその時々での支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみには心がけており清潔でその人らしいおしゃれができるように心がけ、髪のカットやヘアカラーなど希望に合わせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	島料理など得意とする料理を職員へ教えながら、皮むきや配膳セッティングなども一緒に職員と同じテーブルで食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い栄養摂取に心がけ献立や食事量、水分摂取の記録をし職員間で把握、足りない分は補助食で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛けを行い、ご自分でできる方は見守りを行いできない方へは職員がケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握を行い、定期的に声掛け誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎朝のラジオ体操や牛乳などで水分補給を行っている。職員会議などで便秘に及ぼす影響など話し合い、水分補給や運動の必要性など意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員間で情報交換などおこないながらその時々で入浴したい日に入浴できるように声掛け支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を見ながら日中休息していただいたり、夜間良く眠れるようにレクレーション等活動的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを作成し職員が内容、副作用を把握できるようにしている。服薬後の状態観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事、役割、楽しみごとを把握しご本人のできる範囲で一緒に行うようにしている。できたときには感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員とのスーパー、近所への買い物などや希望によってお弁当を作り近くの公園へ花見、またレストランでの外食などや外出の支援に努めている。また自宅への外泊できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金を預かっている方でも買い物時にはお金を手渡しご自分で支払いをやっていたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたい要望があれば対応している。小包などのお礼の電話や、葉書など職員と共に書いたりそのつど対応するように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって刺激的にならないように、植物を置き落ち着いた空間を作り少しでも居心地よく過ごせるような工夫をしている。また温度調整もこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、利用者同士が利用できるようにまた一人でも過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やなじみの写真、使い慣れたものを持ちこまれ本人が居心地よく暮らせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて職員で話し合い環境整備に努めている。		